

令和7度 第1回

推進会議における主な意見

●議題総合戦略の検証

ア. 総合戦略の取組状況について・・・資料1

《質疑・意見》

○ (委員)

一通り見せていただきて、多少の凸凹はあるにせよ、施策はまずまず達成してきているようになります。特に目標達成率に目を向けてみると、ずば抜けて目標を達成している12番の行政オープンデータ公開セット数が240%となっています。目標が15に対して累計実績が36と。気になって今調べたんですが、36から39になってまたさらに数字が進んでいく。

ここまで頑張られた理由をちょっと教えていただきたいなという風に思っております。今、市役所DX進んでおります。実際、皆さんからDXが進まれているのかなと思いますので、そこまで熱くなかった理由を教えていただきたい。

⇒ (事務局)

竹田市のオープンデータにつきましては、以前は一桁の状態でございました。

市の状況としましては、少子高齢化で今後の人口も減少していくという数字の中で、産業の振興、移住定住の促進等進めております。そういう中でやはり広く、市民の皆様、また市民だけに限らず皆様方に、自由に使えるオープンデータを提供することによって、新たな産業の創出、市民サービスの向上に繋がっていけばと考えております。

○ (委員)

ありがとうございます。

大分県内の他の自治体を見てみると、大分市がトップなんですが213データです。その次が杵築で73。その次に竹田なんです。そういう意味で、大分県内の自治体でも、非常に進んでいるのかなと私は思っています。

それから本当に説明されていたとおり、オープンデータを進めていくことで、県外に対して、移住を希望されるような方に対して、このオープンデータにアクセスすることによって、実際に取りやすくなるということも出てくると思います。是非推し進めていただきたいなと思っております。

イ. 交付金事業の実績について・・・・・・資料2

《質疑・意見》

特になし

ウ. 企業版ふるさと納税の取組みについて・・資料3

《質疑・意見》

○ (委員)

企業版ふるさと納税の実績に市道の維持補修プロジェクトという事業があります。このインフラ、道路に限らず水道、下水道はどこでも老朽化の問題はあります、そういった意味で企業版ふるさと納税を使われているんだとは思いますが、この補修っていうのは、ふるさと納税に頼っていいのかな、どうなのかなっていうところが、ちょっと疑問に思っているところでございます。逆にこれがなくなってしまうと、いろんなインフラのところで支障が出てくるような印象を持っているんですが、そのあたりはどのように考えておられるんでしょうか。

⇒ (事務局)

今、ご質問いただきましたが、決してふるさと納税のみで動いているわけじゃなくて、もちろん交付金事業を実施したり、市の単費で予算化をしたりしながらやっておりますので、あくまで、全体の中で一部ふるさと納税を充てさせていただいているということです。

○ (委員)

ありがとうございます。

そういう意味で言うと、前年度分（令和5年度）になるんですが、都市下水路管理プロジェクトで、例えばこれ衛星データを使ってされていたと思うんですけども、こういう新しい取り組みですね、道路の補修っていうインフラの整備じゃなくて、こういう新しい取り組みに使っていただければなというふうに、印象としてはもっています。

【意見交換】

○ (委員)

私、今回こういった総合戦略の検証というような形の会議に参加をさせていただきまして、基本的に言えば竹田の骨格であると思っております。議会等で答弁したりしているもの

が、こういった中で作り上げられているのかなというふうに考えております。

しかしながら、私が思っているのは、戦略的にこのKPIもしくはKG1を目標にやっても、実際には人口が減っている。こどもがどんどん減っている。仕事もこういうふうな地方創生の交付金をもらうために頑張らないかんことも、我々の組織としては十分わかるところがあるんですけども、せっかくこういうふうな会議が行われれば、もう少しこうなんか竹田が全部で盛り上がるような、なんかそんな感じを受けないと、ただKPIの途中経過が58%だからとか、そういうことでは実際はないんじゃないかなと思っております。

こどもも生まれるのが今年間45名、死んでいくのは400名、2045年には11,500人というような形で、しかも50%が65歳以上。そうすると今おられる人は全部もう80、90。私61歳だけど、こういう人間が今言っても、やっぱり20代30代の人が本当に竹田におってよかったな、竹田いいとこやなっていうような、なんかそういうものがないと。

林業もそうですけど、まあ林業の売り上げは竹田がナンバー1と指標出していると思うんですね。しかし予算的にどれぐらいのものが来るかとか、人材育成でどういうものが来るかとかはとてもじゃないけど、まあ形式的にやらなきゃいけないということは分かっているんですけど、それはもう財政の状況もみないといかんし、こういうふうな総合計画を立てないかんしそれも分かります。だけど、やっぱりここにいる課長達が50人、30人いるんだから、そういう方々がやっぱり竹田市は絶対これやるんじゃと、そういうふうなのがないと、これから先ただ絵に描いた餅で、自分たちがいなくなったときは、人口もいないし、後継者もいない、後もない、バスも走らない、高速が来ても人口が減って通る車もない、ガソリンスタンドはやめる、地方の人のここには何もない、だからお父さん、僕は地元には帰りません。働くとこがないんですよ。そういうふうになってくるんですね。だから、これを今止めようと思ったら本当にやっぱり何かこう、何かわからないですよね。私にはわからないんですけど、市長、副市長または課長の皆さん方がおられるんやから、こういった中で本当に知恵を出して、ここにおられるサポートされる大学の先生や銀行、企業関係の方々と本当に連携をとって、竹田すごいなあ、竹田に行って勉強してえなっていうふうにして、よそから来た人たちをサポートしながらやっていく。農業もやってよかったなあとか、伸びるところを伸ばす、強いところを活かす。やっぱり弱みのことを言ってもどうしようもないんで、竹田の強いところは3つあるぞと。これをしっかりとやっていかないと、形式的で終わればそれで終わるかもしれませんけども、我々もそこでみんな働いている。商工も観光も林業も皆そう、だからこういったところを要望です。

私は何をするとかいうのはわからないんですけども、この中で本当にみんなと連携するようなことをやっていただきたい、みんなが活性化して我々も笑顔で毎日働け、いきているのがよいなあっていうような形になると、本当の竹田になってくるんじゃないかなというふうに思っております。

私も60年生きていますんで、何とか後継者たちが希望持てるような市町村にしていただきたいなと。せっかくこういう地方創生で交付金があるんだから、こういったものをいつ

ぱいもらつたらいいですよ。事業をどんどん計画して貰えばいいんです。計画してみんなが使えるものはどんどん使えばよい。

そういうふうな感じでやっていただけるとありがたいと思います。よろしくお願ひします。

⇒ (事務局)

おっしゃる通りだと思います。

確かに国もこれまでを振り返ったときに、地方創生がうまくいったかと全国にもアンケートをとっていますけど、ほとんどの自治体が伸びていない。人口減少はなかなか 1 単体の自治体では解消することは難しい。それはそうだと我々も思っているんですが、どこの自治体もいろんな策をうって人口の取り合いをしても、全体のパイが減っているんで、それぞれの自治体間も疲弊している実態もありますが、だからといって何もしないということは絶対に避けたいし、少なくともここに住んでいることが幸せであれば、そこで育った子供たちもいずれ帰ってくるというところもあろうかと思いますが、そうは言っても働くところが必要だと、おっしゃる通りだと思います。まさに強みを生かすために、先ほどからの皆様方の知恵をいただきながら、それを第 3 期総合戦略に出していくみたいなというふうに思っております。

⇒ (事務局)

ありがとうございます。温かい励ましの言葉というふうに置き換えさせていただきます。

今回、皆さんにご協議いただいているのは、地方創生に関する第 2 期総合戦略の最終年でご報告をさせていただきました。今年から第 3 期がスタートしております、今までの反省をもとにスタートを切っています。

そういう中で、先ほど小川先生からもお話がありましたけれども、やっぱり地域の中に、お金もそうですし、人材もそうですし、リソースが限られている中で、やっぱり大事なのはいろんな諸課題がありますけれども、その中で我々が何を選択して、何に集中していくのかということをしっかりと皆さんにお示しをしていくということが、市民の皆さんにとっても一番に竹田市が目指しているのはどこなのか、というのがわかりやすいお話なんだろうというふうに思っております。

そういう中でも絞り込んだものが総合戦略でありますけれども、さらにこの中から絞り込んで取り組んでいくっていうのが必要になりますが、その中でどういうふうに絞り込むかというと、先ほど小川先生がおっしゃったように、企業版ふるさと納税をいただいた時に、それを何に使うのかっていうのがご意見がありましたけれども、リソースが限られている中で二つのポイントがあると思います。

限られたリソースの中で集中していくって考え方と、もう一つはお金を稼いでいくって

いう考え方があると思います。一応、総合戦略の中では、その二つを取り組んでいこうとしておりますので、そういったところで集中して参りたいと思っております。

稼げるところは稼いで、稼いだお金は政策的に、投資的なところに使っていって、重点的な分野を伸ばしていこうと考えておりますので、そういう意味で今回は前期のご報告ということでありましたけれども、次期は令和7年度以降の第3期の取り組みにつきまして、皆さんにご報告しつつ、皆さんからご意見いただきながら、総括しながら修正していきたいと思いますので、どうか忌憚のないご意見を他にもいただけたらというふうに思いますが、どうぞよろしくお願ひします。

○（委員）

先ほどのご意見の中に、20代30代を竹田に残すのが難しいとありました。

20代の学生を世に送り出す仕事を大分大学はしているんですが、今、若い学生どうなのというところをこちらの方でお話しさせていただきたいと思います。

彼らはZ世代の中期ぐらい。最初のZ世代が1990年代後半に生まれた学生さんたちですが、今中期ぐらいで、学生の中でも1年違うだけで、あいつらは全然違うんだっていう話をしているところなんんですけど、そういうZ世代中期の学生が今どんな生活送っているかというと、例えば、我々学生にレポートを課します。そのレポートが返ってくると、ほぼ9割がAⅠなんです。

私がチャットGPTに触れ合えたのは3年前なんんですけども、今、世に出てから3年ぐらい経っているんですが、格段に今ものすごいAⅠの勢いが伸びています。

教員の中でも、当初はあんなものを使っていたらダメになるって話していたんですが、今はもう実をいうとAⅠをいかに使って勉強するか、高付加とか効率化していくかとかいうのを、そういう学生が今、3年生、4年生でいてこれから世に出ていくんですが、先ほど私DXの関係で発言させていただいたことも関係があるんですけども、世に出て竹田の企業に実際に努めてみて、これFAXで送つといてねって言われたときに、おそらくもしかしたらFAXを送った経験がない学生がこれから増えていくかもしれない。雇う側はFAXも知らんのっていうふうになると、もう多分、学生は嫌でやめる。それぐらい、今、DX化っていうのは、おそらくものすごい勢いの中で、世の中逃げられないようなスピードで増えてきて、

加速しているのが事実なんです。それをいかに、地盤企業、地盤自治体の方々がそれに対応をするかって言うところに、これから若い人たちがいかにそこに定着するかしないかに、私はすごくかかわってくると思っています。

そういう意味で、一方で、産学官連携推進センターにおいて、企業のリスクリソースとカリカレントろか見ているんですけども、非常にやっぱり地方の企業経営の方々のDXに対する意識がものすごくでこぼこがあります。それで経営者の意識の中に、DXに対して高い意識をもっていらっしゃるところは本当にDX進むんです。そういうところには多分

学生も入りやすいんだと思います。

一方で、いやそうじゃなくてという企業さんもあって、本音の話をしてると、リカレントとリスキリングやったら社員逃げていくじゃないっていう、経営者の方も実はいらっしゃるのも事実です。多分うちとしては、そういうところに学生は送り込めません。

そういう意味でやっぱり意識の高い、経営者自身も変わっていかないといけないですし、自治体も変わっていかないと、そういうところを多分若い人たちが見ているんです。

ぜひ竹田は、先ほどDXのデータ見させていただきましたけど、大分県の中では上位占めていますんで、ぜひその取り組みを進めていただいて、自治体だけではなくて民間企業の方々にもDXを進めていただいて、若者に受け入れられる、若者が変わるんじゃなくて、若者に受け入れられる、そういう施策をどんどん打っていただきたいと思っています。

○ (委員)

私教育の方はちょっとわからないんですが、久住高原農業高校ありますよね。私は林業やっているんで、その教育の内容についてはちょっと私は詳しくわからないんですが、今大分県に林業っていうのは日田林工しかないんですよね。できるかどうかはわからないんですけど、そこで例えば林業を教える学科なんかをすぐに加えてもらうとか、そういうことをやっていただけだと、竹田はかなり林業も多いし、面積も広いですし、約5万ヘクタールのうちの70%が山林ですから、そういうものを久住高原農業高校の1つの科目の中でいいんですけど、林業科とかするとその人間を集めないかんかもしれないから、学科の中で林業科目とか、商業科目とかやって、何かこう一つ特徴を、折角久住にこういった高校があるんですから、そういう科目、農業も大事なんですけど、農業と並行しながら林業科っていうのも久住にあるよと。そうするとこどもの中に林業が好きでという子が、もし大分県とか全国の中でおったら、そういうところも勉強して、地元に残ってくれる可能性があれば、0.5%でも1%でもあれば嬉しいな、という感じがして、何かきっかけを作ってあげないと、絶対入ってこないですから、そういうところでせっかく高校があるんで、そこに林業とか商業とか簿記とか、なんかそんなことを考えてくれると、無理かもしれませんのが嬉しいな、と思います。

⇒ (事務局)

僕の方からDXのことで、先生のご指摘の通りです。

実は全く同じ事例がございまして、実は竹田市の建設業の皆さんいくつかるんですけど、ただやっぱりDXに積極的に取り組んでいらっしゃる事業者さんがありまして、そこにはやっぱり先生おっしゃった通り、大学の工学部の学生さんがDXを担当ということで就職したいということで、2人ほど就職していただいています。

ただ一方で、先生おっしゃるように地元の事業者さんが、我々が思うほどDXに対して関心があるかというとそこは全然いっておりませんで、と申しますのもまちづくりたけた株

式会社が事務局になりまして、事業所さん的人材育成のためのいろんなセミナーとか、厚生労働省の事業なんんですけど、その中の 1 つのセミナーとして、DXを推進することで人を集めましょうっていうセミナーをやっているんですが、それに参加している事業者さんにも温度差が凄くあるなっていうふうに感じております。

それで、今回の総合戦略だけではなくて、竹田市の第 2 次総合計画等につきましても、DXの理解等については、重点的にやっていこうということになっておりますので、なかなか地域の皆さんに理解していただくところが難しいところもあるんですけども、引き続いだ、その辺のところをしっかりと取り組みをしていきたいとおもっておりますので、アドバイス等ございましたら、ぜひよろしくお願ひいたします。

⇒ (事務局)

久住高原農業高校はですね、校長に言わせると林業を志す人もぜひ来てくださいと、そういう話をします。ですけどもカリキュラムが決まっているので、林業に関する授業があるかどうかってのいうはちょっとわかりません。それは調べてみたいと思います。

ただ先ほど言われた話の中で、竹田はここがいいんだとかいうのを、何かこう知らしめていただきたいという、委員さんのご意見がありました。竹田は全中学生を対象に「タケタカタロウ」というのをやっていて、竹田の良さを知ろうということをやっています。

前々回は、竹田で農業に頑張っている人たちを集めて、そして前回は、夢を持って竹田で起業したり、いろんな事業で頑張って元気にやったりしている、そういう人たちを集めてやっています。自分の教え子の中で林業をやっているものもいますので、いずれそういういろんな方面で活躍している竹田の人をよんで、キャリア教育の一環として、また中学生等にそういう機会を与えていきたいと思っています。

○ (金融アドバイザー)

資料 3 の企業版ふるさと納税について、今年度から竹田市さんとも連携いたしまして、マッチングサービスを活用させていただいて、寄附を集めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

私もその企業版ふるさと納税のところで、1 つお聞かせ願いたいなと思っているところがございまして、過去の実績を大分県内の各市町村と比較いたしますと、竹田市さん件数が多いんですよ。ちょっと古いデータでは令和 2 年から令和 4 年までのをまとめますと、竹田市さん件数が 29 件ありますと、これ県内でいうと佐伯市さんが一番多くて 42 件。2 番目が竹田市さんの 29 件なんですね。金額は 2,630 万円、3 年間でそれぐらいなんですが、何か秘訣とかこんなことやってよかったよとかいうことがお分かりになつたら、ご教示いただければありがたいなと思っております。

私一方的に説明したんで、なかなか難しいと思いますのでまた後日で結構です。何かございましたら、教えていただければと思います。

⇒ (事務局)

明確にちょっと今は回答できないんですけど、結構市長もトップセールスを行っておりますんで、そういった成果もあるんだと思います。

○ (委員)

観光の話をさせていただきたいと思ったんですけども、竹田市さんの観光客の数字が283万人、中心市街地で17万人と大変検討されていると思うんですけども、令和2年度とかに比べると、若干足踏み感もあるのかなっていう印象をうけました。それの受けとめを聞きたいのと、人口が減っている中で、観光交流人口が一番即効性があると思うんですね。

例えば、別府市だったら11万人口があるところに、観光客が大体1日当たり2万人から3万人ぐらい日中の人口が上乗せされるところにあって、別府市の方に聞いたことがあるんですが、別府市のバスの大きさとか、飲食店のイニシャルもそう、それをベースにできている。インフラもかなり押し上げられているんですよね。観光客が日中上乗せしてくれるおかげで、より高いレベルに提供できているという認識があるということがわかります。

観光に関してのまちづくり感があると思うので、ちょっと現状認識を聞きたいのと、もうちょっと前、熊本の菊陽町に行く機会がありまして、そこでちょっとお話を聞いたことあるんですけど、そこはTSMCの工場ができて、従業員の方が数千人レベルで増えて周辺人口が増えていて、その方たちかなり高収入らしくて、休みの日の観光先をかなり探しているらしくて、みんな大挙して阿蘇の方に足を延ばしているらしいです。

竹田市の強みというのは熊本に近いところもあると思うんですね。そういったところの部分もちょっと考えてもいいのではないかと思います。

⇒ (事務局)

私も、資料の中心市街地の観光客数が減っていて思ったことなんんですけど、今の観光客の関心っていうか、旅行形態も変わっていて、公共施設や観光施設を一つ一つではなくて、滞在型とか体験型とかそういうものを、やはりお客様、観光客が求めていると思います。

ですので、市の方もその求められる方策として、まずは認知度が低いという部分が竹田市はあります。由布市さんとか別府市とかの大観光都市がありますが、そこへ竹田市は通り道ぐらいになっていて、そのまま阿蘇に行っちゃっていたんですね。

そこで地域資源はたくさんあるんで、如何にいろいろ付加価値をつけて、方策も予算を付けて観光グッズの作成をしたり、特に今年度は観光プロモーションを積極的にしたりしていくということで業務委託をして、竹田市観光ツーリズム協会さんと一緒に両輪で頑張ろうというところで、また新たな戦略ができているので、そこも一緒に力となって、果敢に進めていこうと考えています。

先ほどTSMCのお話をあったんですけど、そこは議会からも、熊本に一番近い竹田市と

ということでいつもお話をいただいております。そこは市長の指示により菊陽町の方に行きまして、何か取り組みができるのかというところで、菊陽町の方に直接話を伺っております。

やっぱりいろんなところから菊陽町に伺っている行政がたくさんございますが、その中で竹田市としてT SMCの社員さん、家族さんが阿蘇まで来ているから、如何に竹田市に引っ張ってこられるか。観光バスだったり、いろんなツアーを組んだり、その辺のところも検討していきたいと思っています。引き続き頑張っていきますので、よろしくお願いします。

○ (委員)

観光については今課長がおっしゃった通りなんです。自然にお客様は来るもんだと思って取り組んでいます。

ちょっと言い方変なんですけども、今本当に底辺の部分で商工観光課さんと意思の疎通をして戦略的に動こうという中で、竹田市がこれから湯布院みたいになるのかっていうところで言うと、その湯布院みたいになりたくないっていう教示があるわけです。

これは我々の文化性もあるわけで、そしてお客様も湯布院みたいじゃないから来るっていうお客様がたくさんいらっしゃる。それでリピーターになって、そういうお客様にもっとお金を落としていただくというだけでいいのではないかという考え方も1つあるので。

非常に我々ちょっと外圧がすごいんです。どうなっているんだとかも。熊本はあんなふう、阿蘇はこんなふう、竹田はどうなんだって言われるんですけども、それは段階をおいて状況的には阿蘇に飽きてくる人たちがだんだん出てきますので、その方が少し足を延ばせば竹田っていうのがあるよっていうのは、次の段階、次のベースかなというふうに思っていますので、焦らずやっていきたいというふうには思っております。

せっかくマイクをいただきましたんで、この会議の内容について一つ申し上げたいところがあるんですけども、我々観光ツーリズム協会として観光業者の方々の団体がありますから、そういうコアな議題に取り組んでいくんですけども、実は問題はそうじゃなくて、普通に雇用問題なんです。

我々やりたいことがある、お客様呼び込みたいんだけど、そこに従事する人がいないっていうことになると、もう他の業態、他の業種さんと全く同じ問題を抱えているんです。それが観光業だからということで観光業の人たちを集められて、そこで話をしなさいということでなくて、1回ちょっとこういう団体の枠を取っ払って、全市的に、全体的に雇用についてみんなで腹割って話しださないかんし、いろんな意見を取り入れようじゃないかっていう空気がちょっと調整されないと、こういう業態の人たちだけで解決しようというところは多分きつくなっているところです。

もう我々観光客呼ぶにはどうしたらいいかっていう集まりするわけですけども、それよりも先に誰か人がいないかとか、働く人いないかとか、雇用問題の話がほとんどになってくるという現状を考えると、その先にどうやって誘客していくか、お客様呼んでいくかっていう問題以前の問題が存在しているんだっていうことを共通認識としてですね、この会議

の中の議題というか、注力する部分に置いていただきたいなというふうに思うのが 1 点あります。

それからもう 1 点は、ちょっと大変申し上げにくいんですけども、やはり行政って、あればこそやめる勇気というんですか、計画があるからしなきゃいけないんだっていうことじゃなくて、KPI の数字見て私たちはその KPI について達成率が低いからどうだこうだってなかなか言えないんでしょうけれども、結果が出ないんだったらもうやめちゃう。もっと新しいところに注力するっていうところが必要なんじゃないかと。

竹田市なんかこんな人数少なくて、こんなに疲弊しているんだったら、やれることって本当申し訳ないけど 100 のうち 20 ぐらいしかないんですって言っちゃったほうが、かえってその 20、さっき言ったいいところを伸ばすっていう考え方の中に、もうやれないとかあんまり効果がないというふうに認定しちゃったらもう止めさせてください、止めますっていうところで、新たなものになるのか、今伸びしろのあるものに注力するのか、そういう何かちょっと言葉が正しいかわからないんですけど、やめる勇気を持ってもうちょっと絞っていたほうが、我々もわかりやすいみんなも注力しやすいんじゃないかなというのを思いました。

ちょっとすいません。言い過ぎました。ありがとうございました。

⇒ (事務局)

総合戦略というのは人口減少を解決していくという、そういった内容の戦略ですので、まさに人口減少対策、雇用問題ということになろうと思いますので、まさにおっしゃる通りだと思いますし、やめる勇気、先ほど副市長も言いました集中して強みを生かしていくこうというところもあったかなというふうに思います。

⇒ (事務局)

一つは先ほど言いましたように、一方で竹田市として行財政改革というのを今進めておりまして、その中の議論の中の一つに今委員がおっしゃったように、やっぱりスクラップアンドビルドみたいなことがあって、時代がどんどん変わっていって、常に新しい課題が生まれてきます。状況もどんどんと変わっていくので、そういった新しいものに取り組もうすると、どうしてもリソースが限られているわけですから、どっかを削っていかないと、そこに新しいものに取り組めないということになりますので、そういった意味での行財政改革をですね、今年進めていきたいと思いますが、基本はやっぱり竹田市としての、竹田らしい選択と集中をこれからどういうふうにやっていくのかということが、一つのポイントだというふうに思います。

それと、その中にあります雇用の問題につきましては、本当におっしゃる通り、観光のお客さんが来てもですね、それに対応する人材がいるのかっていうところも実はあります、昨日もいろんな事業所の皆さんと座談会をさせていただきましたが、そういった中でも交

通の問題もそうですが、やはり一番の今のポイントは、やっぱりドライバーを確保いくというところでございます。ニーズはたくさんあるんですけれどもそういう問題です。

おっしゃった通り今まで仕事の問題が、例えば商工観光が労政の問題で取り組んでおりますし、移住者の働き口ということで、移住定住の窓口で働きかけているところもあります。それで、竹田のまちづくりをする上で、委員さんおっしゃったように、雇用という人をどうやってそこに見つけてくるのか。それがいろんな働き方があろうかと思います。フルだけで働く方もあるでしょうし、兼業、副業で働く方もあるでしょうし、先ほど先生からありましたように、例えばA IですとかDXを活用することで解消できる課題もあろうかと思います。

そういうことを、竹田市のこれから取り組む新しい行財政改革の中のテーマの一つでもありますので、何かそういうふうな、市民の皆さんとそういう働き方みたいなところ、仕事をどうするかっていうところを考える場を本当に 만들たらよいなと思いますから、1回それを各課の皆さんと相談しながら、竹田市全体のテーマとしてできればいいかなと思いますので、ちょっと検討させていただければと思います。

○（委員）

全体的なところと、ちょっと各論の二つなんんですけど、先ほど来、若者がとか竹田全体を元気にみたいなご意見があったのを伺がってですね、この総合戦略って5年10年先を見据えたものになると思うんですけど、若い世代の方、竹田ももちろん人口は減ってはいますけれども、結構若い人っているんだなっていう、私も今の仕事しながら結構思うところがありまして、そういう方々に対して、この総合戦略をちょっと私も作る過程を全部把握できていなくて申し訳ないんですけど、再度3期の計画を作るときとかに、どういった意見を聞いて反映されてきたのかなっていうのが一つ聞きたいなと思いました。

またこの計画を作るのは置いといてですね、先ほど西村参事が言われたように、とにかくみんなで盛り上げようみたいなところで、私も結構、今20代、30代の方、意識的に業種問わずですね、声をかけてちょっと集めてグループ作ってっていうのをしていて、竹田でですがども。なかなかこう、その世代の皆さんて結構強い意見とか思いを持っている方が多いなと思う反面、こちらからうまく聞き出してあげないと、なかなか出てこないなんていうのがあって、これ多分組織の中での今の若い世代もそうなんじゃないかなとちょっと思うところがあるんで、なんかそういう方々が中心になって、この戦略でもそうですが、もっとこういうことしたらいいんじゃないのっていうのを私も聞いてみたいなっていうのがあるので、何かもしそういう場があればですね、ぜひ私も協力したいなと思っています。

これは総合戦略も含めた施策の多分反映の仕方、考え方のところのちょっと大枠の話になるんですけども、ちょっと急にすいません各論の話で申し訳ないんですけども、空き家バンクとそのUターンの移住の関係で、先ほどの説明でごく数字がよくて、私もよく、創業起業の相談を受けたり事業承継の相談を受けたりする中で、空き家バンク多いです。特に去

年からすごく移住したい、移住してきたっていう方が多くて、その方に空き家バンクを紹介したり、もしくは物件が空き家バンクに登録されてないんで、ちょっと相談して空き家バンクを介してっていうところだったりよくあります。

確か昨年からできていた空き家再生バンクの取り組みもちょっとぜひやりたいなと思う。なかなかこれ結構難しくて、例えば操業するときに結構な状態のボロボロのやつを再生するにはなかなかお金もかかるしというので、すごく制度はありがたくてメッセージもよくわかるんですけども、ちょっとなかなか案件が掘り起こせないなっていうのが今ありますし、もう一つ、一番は端的に言うと、結構居抜きでぽんと使いやすいような空き店舗というか事業用の物件っていうのが、もっと表に出るとよいなと思っていて、城下町の方では多分空き店舗の管理再生って、主要な指標の中に空き店舗の活用数というのがあったんですけど、私がエリア的に久住、荻、直入っていう商工会のエリアになるんですが、結構物件の相談多くてですね、空き店舗ないですか、店舗事業用物件ないですかと。

なかなか空き店舗バンクみたいなものっていうのは多分ないのかなと思うので、かなり苦労していてですね、私もいろんな会員様のところに何かありますかって聞いたり、竹田の不動産屋さんもかなりお邪魔して縁を作ったりという、不動産のブローカーみたいな仕事ばっかり最近やっているなと思うとこもあるんで、ぜひこの空き店舗のところとかは、竹田の全域に地域拡大して少し手を広げていただけると、より仕事の面から移住定住関係人口も含めてですね、繋がりがもっと増えるのかなと思っておりますの、ぜひご検討いただければと思います。

⇒ (事務局)

大きく二つということで、最初の総合戦略の意見集約ということで、今回の分につきましてはアンケート調査で広く意見を伺うというようなことはしましたが、その数年前に総合計画の方を策定しておりますが、その時にはワークショップとか各地区で開いていて、ただ出席した方は必ずしも若い人ばかりではなく、むしろ年齢の高い方が多ございましたので、これから若い方に意見を聞く機会、いろんな組織の方にというそういった機会を設けていきたいなというふうに思っておりますし、今年から官民連携会議ということで6月に予算がつきまして、早速9月からキックオフの予定をしておりますけれども、今年度はインバウンドをテーマに、民間の何人かの代表の方と行政の意見交換をして政策に繋げようというそういった取り組みもございます。また次年度以降は違うテーマでそういったことも計画していくふうに思っておりますので、そういった今日のご意見、ご要望も踏まえて、それが拡大できればと思っております。

⇒ (事務局)

空き家再生バンクなんんですけど、昨年10月から始まった制度なんですが、空き家バンクに登録できない難物件をその制度で登録して、空き家化していくという事業になります。

今年の状況ですけど、登録物件が6件ございます。そして空き家再生事業者。これは空き家再生バンクの物件を再生する事業者になるんですけれども、こちらは12件登録していただいております。

今いろいろそういったバンク広げているんですけども、基本的に再生バンクについては人が住むことが条件になりますので、店舗だけをそういった再生バンクに登録するってことは今できない状況です。

今後そういうことも踏まえてですね、関係各課と協議していきながら検討していきたいと思います。

○（委員）

熊本のTSMCまで竹田市から通勤時間を考えたときに、そんなに道路事情がよければ、熊本から通ってくる車の量、人の流れよりも、こちらから例えばTSMC用に住宅を作るとか思い切ったことをして、他所から移住定住というのはできないのかなとは思ったこともあるんですけど、それとですね、夏の時期にスイートコーンにあれだけ人が流れてくるんであつたら、やっぱり何かがあれば人が寄ってくるっていうことに目を向けたら、思い切って何か戦略を作って竹田にこれを一つとか、そういうのを作る方法も考えられないのかなと思いました。

⇒（事務局）

TSMC、住宅の関係ですね、これも議会等でも質問が出ておりまして、今は市としてはまず観光誘客、インバウンド対策。先ほど商工観光課長がお答えしましたが、TSMCの皆さんのが近くまで来られているのであればどう取り込むかという話は第一段階で、その次にそういう住宅、通勤圏内にいずれ高規格、竹田阿蘇道路が繋がっていくと、さらに短縮できてそういう形態になるんではないかということから、その次にはそういうところも視野に入れて取り組んでいかなきやいけないなとは思っているんですが、実際、菊陽とか大津辺りにはすごく広大な土地がまだまだ開発途中であって、工場用地と住宅用地が混在していて、そういうところにどうしてもやっぱり近いところから順番に家はできるだろうなと思っています。

そういう住宅、かなり格安でいろんな自治体がやっていますけど、土地代はただねとか、そういう大胆な政策をやっていけばまた変わってくるのかもしれません、果たしてそれが正しいかどうかっていうところもありますので、もうちょっとそこは議論していきたいと思います。

あとは先ほどのスイートコーンの例ですが、まさにいろんな自治体さんも、例えば臼杵さんであればフグを食べに行こうとか、いろんなことを、目的は食べ物とかそういうことも考えますし、竹田市がじゃあどういうところでと、私が答える分野じゃないかもしれません、ツーリズム協会もいろんなアイデアを出してくれようとしておりますので。

例えば秋に竹田に来ると、毎日何か文化的イベントがあって、そういういた取り組みを強化することによって、お客様もそれを目指してきてくれるっていう可能性は、竹田市の場合は大いに秘めているというふうに思っておりますので、これから関係機関の皆さんとそういうヒントをいただきながら進めていければなというふうに思っております。

⇒ (事務局)

先ほどから話しに出てる強み、ここを検証、掘り出してですね、選択と集中っていう言葉をいただきましたが、強みがあればそれを掘り出して政策に絡めて進めていきたいと思っております。